

京都大学イノベーションキャピタルと **Monozukuri Ventures** は
モノづくりに関連するスタートアップの支援強化に向けた連携協定を締結しました

2020年12月1日

京都大学イノベーションキャピタル株式会社
株式会社 **Monozukuri Ventures**

国立大学法人京都大学の100%出資会社である京都大学イノベーションキャピタル株式会社（以下、京都iCAP）とハードウェアスタートアップを投資と試作を通して支援している株式会社 **Monozukuri Ventures**（以下、MZV）は、モノづくりに関連するスタートアップ企業への支援強化に向けた連携協定を締結しました。

2020年に内閣府のスタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市に選定された京阪神地区は、スタートアップの更なる創出支援に取り組んでいます。その中で京都は京都大学をはじめ最先端研究を行う大学や研究機関、また古くからモノづくりが盛んでグローバルに活躍する製造系企業が集積している強みがあります。一方、スタートアップはハードウェアの試作・量産の課題を抱えており、モノづくりの支援が十分ではない現状があります。

京都iCAPとMZVはスタートアップの創出と支援を強化する目的で連携協定を締結し、京都iCAPはMZV関連スタートアップと京都大学の提携を支援して大学の最先端研究とスタートアップの融合、またMZVは京都大学関連スタートアップの試作・量産の課題解決に対して相互に協力致します。この連携を通して、モノづくりスタートアップの活性化に積極的に取り組み、スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市の活動に貢献していきます。

【京都大学イノベーションキャピタル（京都iCAP）について】

京都iCAPは、京都大学100%出資子会社として、京都大学を中心とした国立大学から生まれた研究成果を活用する企業を対象に投資やその他の事業支援を行っております。2016年1月には京都大学と民間企業からの出資を受け、同社を無限責任組合員とする160億円のKYOTO-iCAP1号ファンドを組成しました。同ファンドの満期は最長20年間に設定しており、基礎研究に強みを持つ京都大学の研究成果の実用化を長期にわたって支援することが可能となっています。また、起業に興味を持つ方々を対象とした会員組織である「ECC-iCAP」の運営を大学から受託しており、スタートアップ企業の経営者候補の発掘・育成にも力を入れています。

【Monozukuri Ventures について】

Monozukuri Ventures（略称: MZV）は、京都とニューヨークを拠点に、ハードウェア・スタートアップへのベンチャー投資ファンドの運営と、ハードウェアの試作・製造に関する技術コンサルティングを提供する企業です。2020年1月に、Makers Boot Campを運営する株式会社 Darma Tech Labs（京都市）と、FabFoundry, Inc.（ニューヨーク市）が、2社のハードウェア・スタートアップ支援の経営資源を結集して発足しました。MZVが運営するMBC試作ファンドは2017年夏に発足し、日米のハードウェア・スタートアップ32社（日本15社、米国17社）に投資しています（2020年11月末時点）。またスタートアップ企業を中心に、70以上の試作プロジェクトを支援しています。

【お問い合わせ先】

京都大学イノベーションキャピタル株式会社
〒606-8317 京都市左京区吉田本町36番地1
事業企画部長（広報担当） 河野修己
TEL：075-753-7588 FAX：075-753-7592
E-mail：info@kyoto-unicap.co.jp

株式会社 Monozukuri Ventures
広報担当：関信浩
E-mail：pr@monozukuri.vc